

ゆずりは通信

第37号 令和2年4月1日

(年2回発行)

発行：ゆずりはの会事務局

電話：0565-35-7182

Eメール：takekaki@hm8.aitai.ne.jp

ホームページ：

<http://www.hm9.aitai.ne.jp/~warabino/>

ゆずりはの会 2019年7月定例会

7月17日(水) 午後1時30分～ 福祉センター、 36会議室 11人が参加

内容

1. あいちホスピス研究会 第3回公開講座

- * 「2人そろえばコミュニティ」～学んで繋がり自分達で創る人生を生き抜く処方箋～
内藤いずみ医師の講演 福島県で在宅医療の医院を開いている。
- * 人には、それぞれの暮らしがあるので、これを守って生きてゆけるように支援している。
- * そうした経験から、最後の時を迎えるにあたって、大勢はいらない。一人でも親身になって支えてくれる人が居ればよい。それでコミュニティが成立すると考えるようになった。そうしたパートナーを見つけましょう。
- * 最期の時をどのように迎えようかと言っても、抽象的なことばになってしまう。1枚の絵を描くことを勧めたい。自分が真ん中位にいて、その周りに誰が居てほしいとか、何があってほしいとか、自宅なのか施設なのかを描く。それを書くことで、自分の思いをはっきりさせゆく。

2. エンディングノートの紹介

- * 生協メグリアで作成されたノートである。実際に業務を担当している人が作ったものなので、きめ細かく、分かりやすい。

3. 新入会員

- * 山本さん 河合町
「みんな」で、主として、松田さんといっしょに活動している。
徳島さんとは、豊南交流館で「大人が楽しむ童謡」グループで一緒にいる。

ゆずりはの会 2019年9月定例会

9月18日(水) 午後1時30分～ 福祉センター、 36会議室 9人が参加

内容

1. 本「緩和ケア医が、がんになって (著者:大橋洋平)」の紹介

著者は56才。緩和ケア医として働いていた。55歳の時に、胃がんが見つかり、手術で摘出し、抗がん剤治療を受ける。それから、1年後に肝臓への転移が見つかる。医者として、患者に言って来たこと、あるいは処置してきたことのいくつか、患者にとってとてもつらいこと

だったことを知ることが出来た。患者に、もっと「自由にものを言う。わがままを通してよい」と勧めている。一般人思いとしては、医者はお高いので、患者の立場になる人が増えると、医療の世界も変わるのではないかと期待してしまう。

9月20日6時10分 NHKテレビ「まるっと」で10分位、この本と著者が紹介されました。

2. 大橋医師の勤めている病院は、JA海南南病院で弥富市にあるが、自分はこの近くの病院に長く通った。リュウマチについて良い医者だと、友人から勧められた。新しい薬の開発もあり、今は小康状態を保っており、有難い。
3. 日本は高齢化社会が進んでいる。65歳以上が3588万人。
100歳以上が全国で7万人を超えた。豊田市でも159人(うち女性が138人)とのこと。
名古屋市では、高齢者には、交通機関優待パスがある。
東海市では、24歳以下の、大学生や専門学校生に入院費の補助を決めた。
近辺の町で、豊田市より進んだ福祉政策がある。
4. 釘宮さんのご主人は、脳梗塞で体の機能に不自由がある。今では、リハビリの成果が出て、大分回復してきた。同じ悩みを持った人たちの集まり、活動に積極的に参加できている。
5. 「子ども達に伝えたいこと」
を話し合う集まりが開かれるので、関心のある方は参加をしてください。
6. 「致知」(人間学を探究して四十一年と)という雑誌の紹介
有名人が寄稿している。内容がとても良い。
次の集まりに、何冊か持ってくるので、読んでください。

ゆずりはの会 2019年 10月定例会

10月16日(水) 午後1時30分～ 福祉センター、 35会議室 11人が参加

内容

3. 豊田加茂医師会 市民公開講座(9月7日)の紹介

炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎・クローン病)について、2人の医師

消化器内科の立場から 豊田厚生病院 内視鏡センター長 都築智之

肛門科の立場から 家田病院 IBD部長 太田章比古

が講演を行い、質疑応答が行われた。

少し前までは、難病という事で恐れられていたが、最近では、新薬など新しい治療法が開発されて、かなりコントロールが出来るようになった。専門医に相談すると良い。

講演会の参加者は、200人位とやや少なかった。医師、看護師、福祉施設の職員など、関係する仕事についている人が多いように思われた。また患者やその家族も、何人かいて、切実な質問をしていた。

2. シルバー川柳

全国有料老人ホーム協会が、募集したシルバー川柳の入選作:20首が紹介された。

3. すずめ蜂の巣の除去騒動

くま蜂の巣が、自宅の庭に出来た。この除去作業をテレビで撮ることになった。除去の業者と撮影関係者が集まり、大ごとになった。

4. 「致知」(人間学を探究して四十一年と)という雑誌

何冊かを提供くださったので、希望者が持ち帰った。

5. ミルキークイーン(米)提供くださったので、1袋づついただいた。

腰痛を押して栽培、ありがたく頂いた。

6. 新しい人の参加

鳥居忠雄さんです、釘宮さんの誘いで参加されました。

ゆずりはの会 2019年11月定例会

11月20日(水) 午後1時30分～ 福祉センター、 36会議室 10人が参加
内容

1. 豊田市ボランティア連絡協議会 2019年度 第3回交流サロン

2019年10月18日

講話 「食品ロス削減のためのフードバンク活動について学ぼう」

講師 セカンドハーベスト名古屋 事務局 山内大輔氏

山内さんは、もともと中学校の理科の先生だった。東日本大震災でのボランティア活動をきっかけに、違った世界を知った。日本では、まだ食べられるにもかかわらず、大量の食品が捨てられている。一方で食べるのに困っている人が沢山居る。何かできないかと考え、フードバンク活動を起ち上げた。

日本では、643万トンの小量が廃棄されているが、これは米の生産量782万トンに比べられるほどである。また食べ物を買えなかった経験を持つ家族が15%もいる。フードバンクでは、企業や個人から食料を集め、必要とする団体や個人に届けている。公共団体や企業の災害備蓄食品が、大手の寄付先である。一方で、スーパーやコンビニなどで実施されている1/3ルールが、多くの廃棄食品を生んでいる。まだまだ、活動資金不足や、活動を支える人の確保で、困難を感じている。

* 食べることに困っている人がそんなに多くいるのだろうか、なかなか見えにくいね。

* 家庭が成り立っていないことが背景にあるとおもうが、様々な福祉制度が必ずしも、有効に機能していないのだろう。

2. 高齢者の足確保

トヨタ自動車の従業員から。「車が無い、免許証が無い」などの理由で外出できない人と、

運転できる高齢者を結びつける仕組みを作りたいと思うが、どうだろう？という相談があった。

3. 自治区の組長

各自治区では、世帯をグループ化し、組長という世話役を配して、区の運営に当たっているが、高齢化などで、組長を辞退する人が増えてきている。どういう世帯は、組長を辞退できるか、目安を作ろうとしているが、なかなか難しい。

ゆずりはの会 12 月定例会

12 月 18 日(水) 午後 1 時 30 分～ 福祉センター、 36 会議室、 参加者 8 人

内容

1. 茂木健一郎氏の講演

「豊田市はたらく人がイキイキ輝く事業所」の表彰式が行われた。

11 月 21 日 産業文化センター

女性が働きやすい施策を行っている会社が、表彰された。

その行事の基調講演として、茂木健一郎氏が「働き方の変革に向けて～必要な脳力」の演題で話された。

社会に大きく影響する活動をした人たちの何人かを紹介して、その人たちが、偏差値の高いいわゆる優秀な人とは、違っている事を説明した。社会でのコミュニケーションは下手だが、特殊な能力を持っている、感性が鋭い などの特徴があった。

* 未来の社会は、そういう人たちも普通の一員として認められ、活躍出来るようにすべきだ、日本は、そういう異端の人に冷たいので、そういう社会を変えてゆこう。

* 日本の優れた特徴、「わび・さび」、「改善の積重ね」などを、もっと日本人が理解しよう、などと 提案された。

色々な話題を持っており、話は面白かったが、上記の表彰式の趣旨と、かけ離れているように思った。

* 講演の中で、「フロー」の説明があった。自分が抱えている課題と自分のスキルが一致していると、仕事そのものが楽しくなる、との説明だったが、現実には、課題が難しすぎて、スキルがついてゆけないで悩んでいる人が多い。

* 協育NPO母りん子

0-6 歳を対象とした母子関係を重視する自主保育グループで、子供達がかしこく、つよく、ゆたかに育ていけるよう活動している。こうした例もある。

2. ゆずりはの会は、「何のために活動しているか」の辺りが、曖昧のまま続いてきています。

来年以降、どうしてゆこうかとの話題を提供した。